



やま き き さかな ほんとう 山の木を切ると、魚がとれなくなるって本当なの

き は ふようど つく 木の葉が腐葉土を作る

あき は お らくようじゆ じめん お は び せいぶつ
秋になると葉を落とす落葉樹(ブナやクヌギなど)の、地面に落ちてたまった葉は、微生物
のはたらきで分解されて、ふかふかした腐葉土になります。腐葉土は、生物の栄養分になる
ものをたくさんふくんでいて、カブトムシの幼虫のえさにもなります。山に降った雨水は、
ふようど なか ようぶん じめん ちか とお みず かわ
腐葉土の中の養分をとかしこみながら地面にしみこみ、地下を通して、わき水になり、川が
できていきます。

ですから、らくようじゆ やま なが かわ みず えいようぶん
ですから、落葉樹がたくさんある山から流れてくる川の水は、栄養分をたくさんふくんで
います。そのえいようぶん かわ ちい ちゅう い もの
その栄養分をえさにする、川の小さいこん虫や生き物がふえ、さらに、これらを
えさにする さかな やま き き かわ えいようぶん すく かわ せいかつ
えさにする魚も、ふえます。ぎゃくに、山の木を切ると、川の栄養分が少なくなり、川で生活
する生き物の数も減って、さかな
する生き物の数も減って、魚もとれなくなるのです。

やま き こうずい ふせ 山の木は、洪水も防ぐ

き は ね から たえず たくさん の みず す あ は すいぶん くうきちゆう だ き
木は、根からたえずたくさんのお水を吸い上げ、葉から水分を空気中に出しています。木の
ね ちか ね ちか ちゅう ようちゅう い もの せいかつ
根の近くには、ミミズやこん虫の幼虫、そのほかのたくさんの生き物が生活しています。
これらの生き物のはたらきで、腐葉土からたえず、新しいやわらかい土ができてきます。
そのため、たいりょう あめ ふ き ね みず す あ ね ちか つち あまみず
そのため、大量の雨が降っても、木の根が水を吸い上げ、根の近くの土が雨水をつかま
えています。そして、すこ ちか あまみず す ちか すい
ています。そして、少しずつ地下に雨水が吸いこまれ、地下水になります。ところが、しよくぶつ
が生えていない地面や、岩だらけの所に降った雨は、地面に吸いこまれることもほとんど
なく、そのまま かわ どしゃ なが おおあめ ふ かわ みず
なく、そのまま川に土砂とともに流れこみます。そのため、大雨が降るたびに、川の水があ
ふれ、こうずい
ふれ、洪水になりがちです。(監修・矢野 亮)

